

第 62 回兵庫県献血推進協議会（議事要旨）

1 開催日時 令和8年1月27日（火）午後2時～3時40分

2 開催場所 兵庫県薬剤師会館4階会議室

3 出席委員

副会長	八田 昌樹	委員	濱野 隆
委員	橋本 弘子	委員	大西 あけみ
委員	大角 謙二	委員	海保 雅一
委員	錦織 千佳子	委員	後藤 武
委員	伴 智代	委員	藤盛 好啓
委員	折田 環	委員	小島 雅代
委員代理	福井 芳仁		

4 事務局等出席者

(1) 県

中井保健医療部次長 小田薬務課長 他（計7名）

(2) その他

兵庫県赤十字血液センター（2名） 保健所設置市（3名）

5 報告事項

(1) 献血者数等の状況について

(2) 年代別献血状況について

(3) 献血普及啓発事業等の実施状況について

【兵庫県赤十字血液センターからの説明】

若年層の献血については、若年層の人数が減っているからではなく、献血率が減っていることが問題。以前は、県の高校生献血ボランティア事業や血液センターの献血セミナーの後に献血バスを配車という流れで実施できていたが、それが難しい御時勢。今年度、献血ルームに来た高校生にアンケートを実施してみると、県内の高校生が献血に御協力いただいていることが分かった。一方で、兵庫県献血推進協議会長感謝状の選考基準では、高校には年間で概ね30人以上を8年以上となり、今の高校生たちの行動が8年以上たたないと顕彰につながらない。ここに着目して、来年度、兵庫県赤十字血液センターとして単年度の顕彰制度を創設することを考えている。血液センターとしては、献血や啓発にご尽力いただいた高校に感謝の気持ちを伝えたいというのが1番だが、献血者数を高校にフィードバックすることで、高校生や教職員の方達への献血の意識付けにつながるのではないかと考えている。

【委員からの質問】

ア 献血推進協議会長感謝状の選考基準で30人以上となっているが、これまで

は献血ルームでの献血者数は高校の実績になっていなかったのか。

(兵庫県赤十字血液センターの回答)

これまでは、高校に配車した献血バスでの献血者数が実績になっていた。来年度は献血ルームでの高校生の献血者数も把握して、次回の当会議にて報告させていただきたい。

イ 献血推進協議会長感謝状の選考基準が30人以上となっているのに対して、年間の延べ献血回数が50回以上というのは厳しいのではないかと。

また、高校生とお話をすると、献血ルームがどこにあるかも分かっていない。献血ルームでの献血が新たな顕彰制度の実績になるなら、献血ルームのPRも推進したほうが良いのではないかと。

(兵庫県赤十字血液センターの回答)

献血推進協議会長感謝状の選考基準については、献血バスを1回配車し、その際に30名の御協力をいただかないといけない。一方で、今年度の調査結果では、自主的に献血ルームでご協力いただいている生徒の延べ献血回数が50回以上となる見込みの学校もある。また、生徒が献血に御協力いただいていることへの感謝を高校に対してお伝えし、集会等で先生方から生徒に対してお話いただけると献血者数は更に増えると考えている。そのため、50回が適正と考えている。

献血ルームの周知については、今後、努力します。

(4) 血液製剤の適正使用等の推進状況について
委員からの質問等はなし。

(5) 造血幹細胞移植の普及啓発事業の推進等について

【委員からの意見】

ア 提供された臍帯血がどのような疾患に使われているかを次回以降はご報告したい。

イ 顕彰制度について、県内の臍帯血採取協力医療機関はほとんどが5年以上という基準をクリアしている。顕彰制度は積み上げ形式となっているのが通常で、厚生労働省に対して働きかけ、顕彰規程を創設いただいた。献血に関しても少し現実的ではないのではないかと。現在の選考基準を変えていけばいいのではないかと。

(事務局回答)

選考基準については、これまでの経緯も考慮しながら、関係団体の皆様とご相談しながら再度検討します。

ウ 造血幹細胞移植については、大学生への取り組みをさせていただいているので、献血についても、大学生をターゲットとした取り組みをもう少し考えていただければいいと思う。

6 協議事項

(1) 令和8年度兵庫県献血等推進計画(案)について

【協議結果】

原案どおり承認

【委員からの意見】

官公庁及び企業等に対する献血セミナーというのがあるが、やっているということあまり聞かない。もう少し強化してもいいのではないか。官公庁で実施する献血会によっては、献血者が少ない。この背景には、職務専念義務免除が適用される自治体がある一方で、献血をするために有給休暇を取らなければならない自治体もある。地方自治体には法律で役割が明記されているのにも関わらず、職員が献血に協力しづらい環境だと思う。献血は他のボランティアとは違うと思うので、是非、兵庫県下の市町の状況をお調べいただき、官公庁の職員が献血しやすい環境づくりに努めていただきたい。

(事務局回答)

官公庁における献血については、各市町に何らかの形で働きかけをして参ります。